



令和7年産（6年播種） 麦類の生育概況 vol.5



埼玉県マスコット
「コバトン」

（令和7年4月3日現在）
埼玉県農業技術研究センター

要 約

◎気象概況：3月の月平均気温は9.8℃と平年よりも高かった。月合計の降水量は93mmと多く日照時間は少なかった。

◎生育状況：12月上旬までに播種されたほ場では、おおむね必要な茎数が確保され平年並みに茎立期を迎えた。12月中旬以降に播種されたほ場では、生育量（特に茎数）が少なく茎立期も10日程度遅れている。

◎今後取るべき技術対策

- ・追 肥：葉色が低下している場合は、麦種、品種と生育に合わせた追肥を実施する。
- ・排水対策：排水機能を保つよう明きょと排水溝の点検・補修を行う。
- ・雑草防除：カラスノエンドウ、カラスムギなど、収穫物に種子が混入する恐れのある雑草は確実な除草を行う。
- ・病虫害防除：麦の生育に合わせた赤かび病防除計画を立て、適期に防除を行う。

1 気象の概況

3月の平均気温は、第1、3、6半旬が平年より高く、第2半旬は平年並、第4半旬は低く、第5半旬はかなり高かった。月平均では平年より1.2℃高かった。降水量は、第1、4半旬が平年よりかなり多く、4日、5日にはそれぞれ合計4cm、2cmの降雪があった。その他の期間は平年並から少なく推移し、月合計では平年比135%となった。日照時間は、第1半旬がかなり少なく、第2半旬は平年並、第3、4、6半旬は少なく、第5半旬は多く、月合計では平年比93%となった。

2 生育の概況

（1）所内生育相

ア 小麦（「さとのそら」：11月25日播種）

第5半旬に最高気温が20℃を上回る日があるなど、高温傾向に推移し、定期的な降雨もあったため、これまで遅れていた生育が促進され、3月25日調査時点の草丈は平年（暖冬で推移した令和2～5年播種の4か年平均）比94%、茎数は平年比105%、葉位は平年差-0.3枚となった。茎立期は平年より4日遅くなった。

イ 大麦（「ニューサチホゴールデン」：11月25日播種）

前年同月と比較し、本年は高温傾向であった。また、定期的な降雨があった

ため、遅れていた生育が促進され、3月25日調査時点の草丈は前年比94%、茎数は前年比91%、葉位は前年差-0.3枚となった。茎立期は前年より7日遅れたが、向こう1か月予報の気温は平年並または高い見込みから、出穂期はおおむね前年並と予想され、主稈総葉数は前年より0.3枚程度少なくなる見込みである。

(2) 県内全般

12月上旬までに播種されたほ場では、おおむね目標とする茎数が確保されているが、12月中旬以降に播種されたほ場では茎数が少ない。茎立期はおおむね平年並であったが、12月播種のほ場では11月播種と比較して10日程度遅れている。

追肥作業が行えなかったほ場では肥料分が不足して葉色の薄いほ場が見られる。また、排水不良ほ場などでは下位葉の黄化など湿害の兆候が見られる。

3月中旬以降、最高気温15℃以上の日が12日あった一方で、霜が降りるとされる最低気温4℃以下の日が連続して4日あったことから大麦では凍霜害の発生が懸念される。

二条大麦では3月15日頃から出穂が始まったが、生育の進んだほ場では穂ばらみ期から開花期に降雪等の低温に遭遇した。

3 今後の生育予測

(1) 気象予測

1か月予報（気象庁4月3日発表）では、向こう1か月の気温は高い見込みである。3か月予報（同3月25日発表）では、気温は5月はほぼ平年並、6月は高い見込みで、降水量は5月、6月ともほぼ平年並の見込みである。

(2) 生育予測

今後、気温は平年並に推移すると予報されているため、出穂期、成熟期は平年並と考えられる。

大麦を中心に茎数の少ないほ場では、茎立期以降に遅発分げつの発生が予想される。遅発分げつは主茎よりも遅れて出穂することから、株の中で開花・成熟が不斉一となり成熟むらを生じる。収穫時には遅い穂の成熟を待って収穫する傾向にあることから、先に出穂した穂の品質が低下する危険性がある。

生育の進んだほ場では、3月4日、19日の降雪等の低温の影響により幼穂への凍霜害の発生が懸念される。

4 今後取るべき技術対策

(1) 追肥

「さとのそら」では、茎立期までに追肥できなかったほ場では出穂2週間前に窒素成分で3～4kg/10aを目安に施用する。

また、肥切れにより葉色が低下しているほ場では、生育に合わせて窒素成分で1～2kg/10aを目安に施用する。

晩播や生育量が少なく、葉色が濃いほ場では追肥を控える。

（２）排水対策

３月に入って定期的な降雨があり、降水量が多いことから、根の機能が低下しているほ場も見られる。今後もまとまった降雨となることがあるので排水対策はしっかりと行う。気温が高くなる茎立期以降のまとまった降雨は、根の機能を低下させ湿害を助長する。麦踏み等で明きょが埋もれていないか、外部の排水路としっかり連結されているか等を確認し、不備があれば速やかに補修する。

（３）雑草防除

茎立期を過ぎると使用できる除草剤が限られるため、早めに雑草の種類と葉齢を確認し、処理適期を逃さないよう防除を行う。特に、カラスノエンドウ、カラスムギなど、収穫物に種子が混入する恐れのある雑草は手取り除草を行う。

（４）病虫害防除

赤かび病の防除は必ず実施する。特に、多雨や凍霜害の影響による不稔が赤かび病の発生を助長することがあるので注意する。

凍霜害により組織が壊死すると赤かび病菌が組織内に侵入しやすくなる。また、不稔になると受粉を促すように小穂の穎が開く時間が長くなり、赤かび病菌が侵入しやすくなる。この様にして凍霜害を受けると赤かび病の感染リスクが高まる。

防除適期は下表を目安にする。防除に際しては、隣接ほ場の麦種が異なる場合などは薬剤散布の収穫前日数を超過する恐れがあるのでドリフトに十分注意する。

平年の出穂時期は、１１月播の小麦と六条大麦が４月中旬、二条大麦は３月末～４月上旬であり、１２月播はこれより数日～１０日程度遅くなる。

※赤かび病防除の目安

小麦	・ 出穂から７～１０日後を目安に開花初めを確認し、直ちに薬剤を散布。 ・ その後、降雨が継続した場合、開花１０日後に追加の薬剤を散布。
ビール麦 (二条大麦)	・ 穂揃期の１０日後に薬剤散布。
六条大麦	・ 穂揃期に薬剤を必ず散布。 ・ その後、降雨が継続した場合、開花１０日後に追加の薬剤を散布。

解析・考察に用いた具体的数字

1. 3月の気象表（熊谷气象台日別測定値から集計）

半旬	平均気温(°C)		最高気温(°C)		最低気温(°C)		降水量(mm)		日照時間(hr)	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
1	7.7	6.9	13.9	12.5	2.5	2.0	42.5	10.4	18.6	32.6
2	6.6	7.4	12.0	13.1	1.8	2.5	0.5	10.7	38.6	33.2
3	11.0	8.1	16.7	13.9	6.1	3.0	1.5	9.3	28.2	34.0
4	7.2	8.9	12.0	14.7	3.2	3.7	38.5	9.1	30.9	33.6
5	13.7	9.6	21.8	15.3	6.0	4.5	1.5	11.0	45.8	32.6
6	12.4	10.4	18.2	16.2	8.2	5.3	8.5	16.0	26.4	39.3
平均	9.8	8.6	15.9	14.3	4.7	3.6	合計 93.0	69.0	188.5	203.2

注.半旬数値は熊谷地方气象台日別測定値から集計。ただし、月平均・合計は気象台値。

平年値は 1991～2020 年の気象台値。

2. 生育状況

品種名	調査日	草丈(cm)		茎数(本/株)		葉位(L)		風乾重(g/100本)		風乾歩合(%)	
		本年	平年比 前年比	本年	平年比 前年比	本年	平年差 前年差	本年	平年比 前年比	本年	平年差 前年差
さとのそら	3月6日	17.4	85	10.2	102	7.6	0.2	53.5	79	15.5	-1.6
	3月14日	22.7	76	10.2	97	8.5	-0.3	89.1	78	15.0	-1.5
	3月25日	40.1	94	10.2	105	9.6	-0.3	196.5	91	13.9	-2.0
ニューサチホゴールドデン	3月6日	24.4	64	14.1	93	8.2	-0.8	119.1	47	13.5	-0.5
	3月14日	32.5	73	13.2	91	9.2	-0.3	189.0	58	13.0	-1.7
	3月25日	54.8	94	13.5	91	10.3	-0.3	380.1	72	12.9	-1.8

注 1.さとのそらは平年値（暖冬であった令和 2～5 年播種の 4 か年平均）、ニューサチホゴールドデンは前年値との比較（以下同様）。

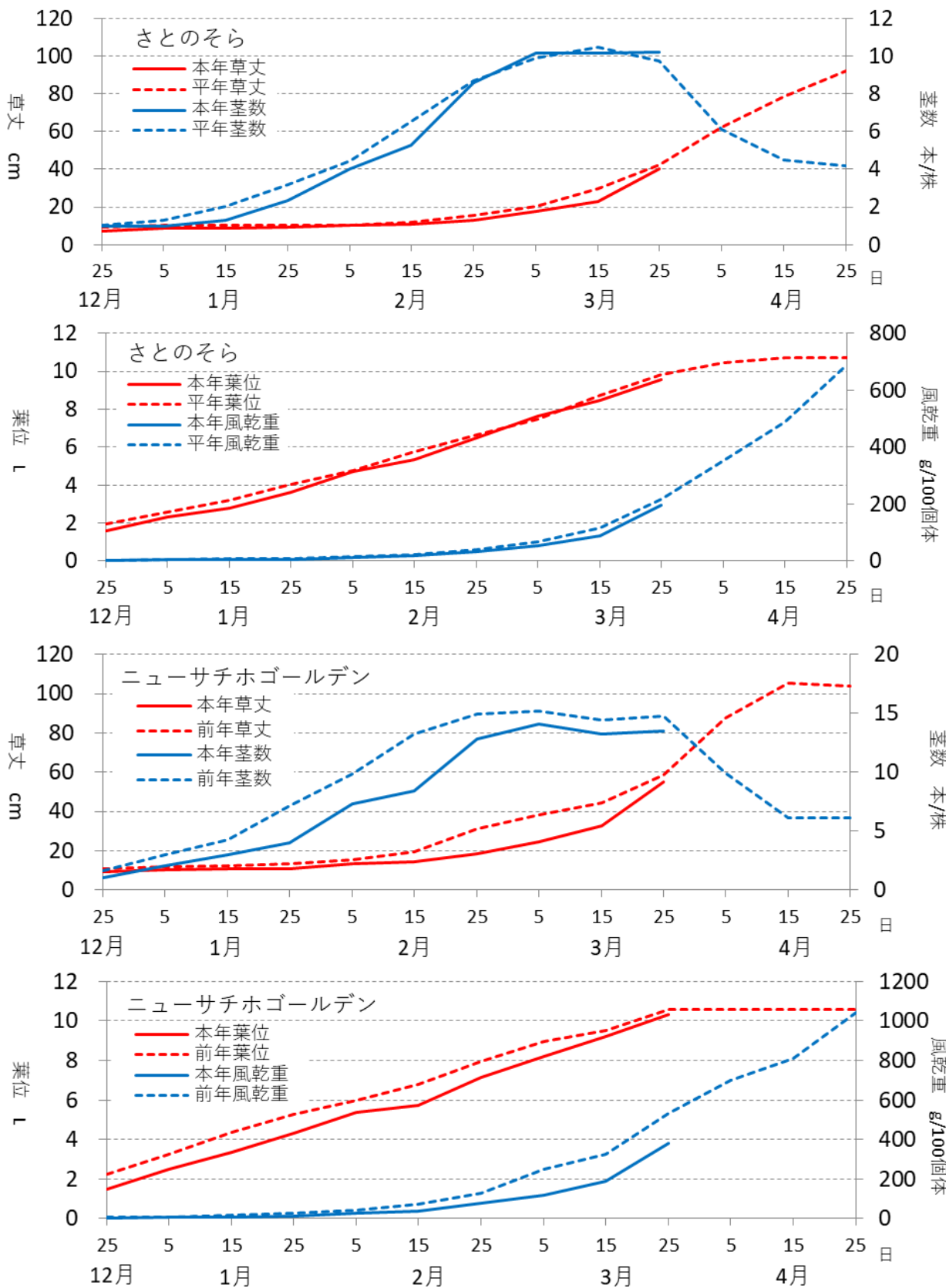
注 2.風乾重は 100 個体当たりグラム、風乾歩合は風乾重/生体重。

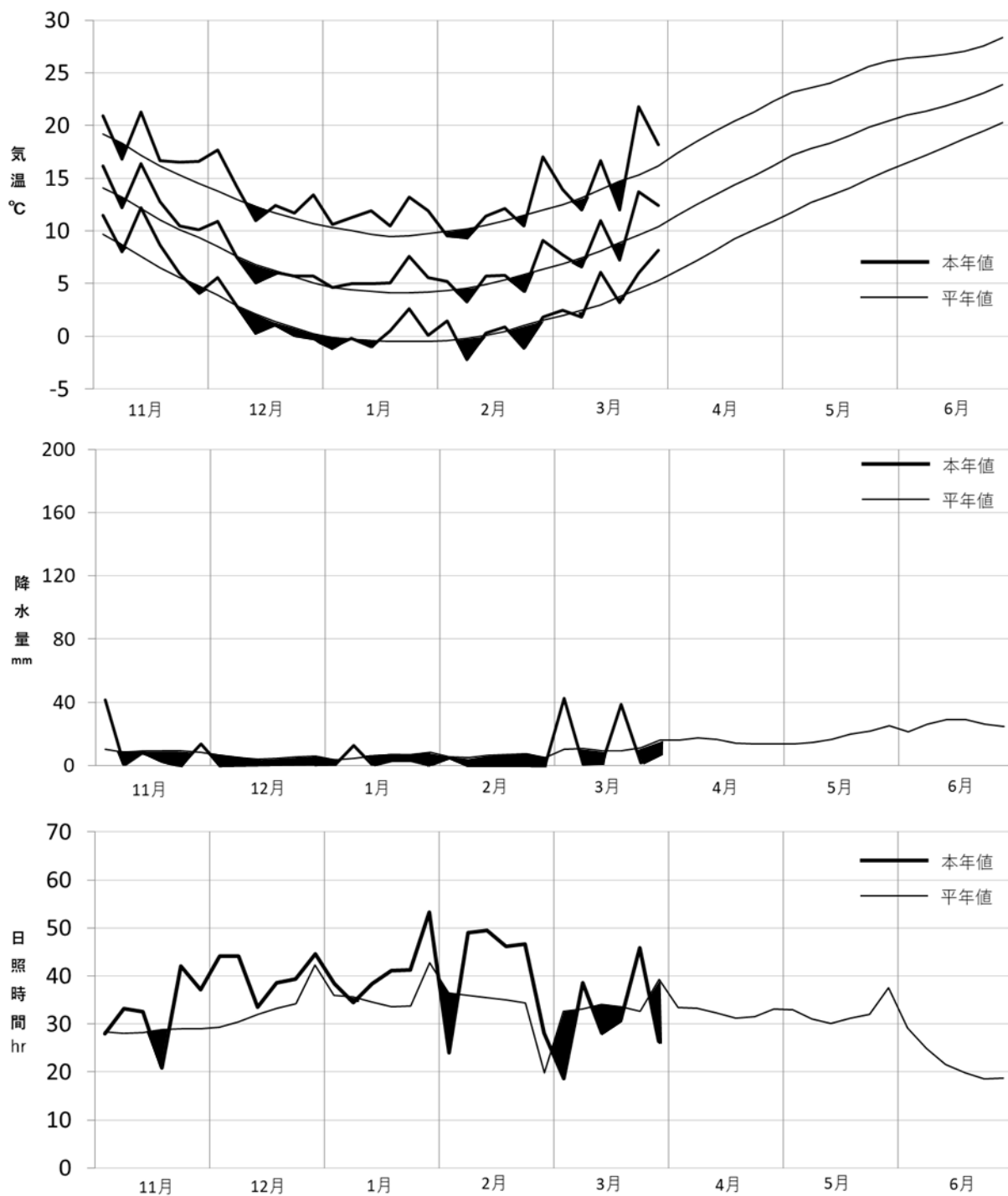
注 3.平年比、前年比は％（以下同様）。

3. 莖立期及び出穂

品種名	莖立期			出穂始			出穂期			穂揃期		
	本年	平年 前年	平年差 前年差	本年	平年 前年	平年差 前年差	本年	平年 前年	平年差 前年差	本年	平年 前年	平年差 前年差
さとのそら	3/18	3/14	4	-	4/8	-	-	4/10	-	-	4/13	-
ニューサチホゴールドデン	3/6	2/27	7	-	4/1	-	-	4/4	-	-	4/7	-

4. 生育経過（11月25日播種）





令和6年播（7年産）冬作期間気象図
（熊谷地方気象台日別データより作成）